

押原譲写真展

OSHIHARA YUZURU Photo Exhibition

ガ

ḡāzā

غزة

காசா

Gaza

加沙

गाजा

가자

Гaзa

ḡāzā

ḡāzā

ဂါဇာ

กาซา

γάζα

dài gaza



2024

5/17(金)-7/15(月・祝)

開館時間: 9:30~16:30(入場は16:00まで) 休館日: 日曜日、祝日の翌日

会場: 立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール、企画展示室

主催: 立命館大学国際平和ミュージアム

共催: 立命館大学中東・イスラーム研究センター(Center for Middle Eastern and Islamic Studies Ritsumeikan University)

後援: 京都市、京都市教育委員会、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会

写真プリント協力: 有限会社フォトグラファーズラボラトリー

入館料: 大人400円(350円)、中学生・高校生300円(250円)、小学生200円(150円)

※()内は20名以上の団体料金、常設展示見学可、国際博物館の日(5/18)は無料公開

※立命館で学ぶ人、働く人は無料



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

押原譲写真展「ガザ」

2024—2004

報道写真家が出会ったガザ、エルサレム

そこに生きる人の物語。

2023年10月7日、その日から続くイスラエルのガザへの軍事侵攻は、幾度となく摩擦と衝突が繰り返される中東地域の問題を改めて浮き彫りにするとともに、今を生きる私たちに、人として生きることの意味を問い直すものとなりました。

本展は報道写真家、押原譲が2003～2004年に訪れたガザ、エルサレムでの取材記録を中心に、2024年の今、「そこに生きる人の物語」を考えるものです。オリーブの木が繁る大地、市場での買い物、友と語り、学校で学ぶ、家族と過ごす当たり前の暮らし。そして同じくらい当たり前にそこにある暴力。

1人の写真家が写し撮った20年前の景色には、紛争、戦乱という側面だけで表すことを許さない、豊かな生があります。

遠い世界の出来事ではなく、隣人の営む毎日を想像してみませんか。

「ガザ」で起きていることは今、私たち一人一人の問題です。

押原譲 (1947-)

国際基督教大学卒業後、フランスに渡りパリ第三大学フランス文学科に入学。1974年、アンスティチュー・ド・フォトグラフィ・ジュネーブ(ジュネーブ写真学校スイス)入学。卒業後、日本の文化出版局のバリ支局でカメラマンとして働き始める。

1970年代末のバリでのカンボジア人留学生との出会いを発端に、カンボジアを中心としたインドシナ難民の姿を撮影し、カンボジア、タイ、サラエボ、東チモール、ガザなどの紛争地に赴き取材してきた。



通りの少女 ハン・ユニス 2004年



ヴィア・ドロローサ エルサレム旧市街 2003年



入植地との境の壁 ガザ 2004年



ラファ市 2004年

(表) 難民キャンプ ハン・ユニス 2004年

展覧会企画「私と中東」コーナー/ギャラリートーク

※詳しい日程はWebサイトでご案内します。

あなたにとっての「中東」について、来館者のみなさん同士で語りませんか。時々、ゲストも登場します。

日時 5月17日(金) 10:00～11:00 / 14:00～15:00

ゲスト 押原 譲氏

6月15日(土) 14:00～15:00

ゲスト Kansai Youth Movement for Change

君島 東彦 館長

7月 6日(土) 10:00～11:00

会場 国際平和ミュージアム 中野記念ホール

参加自由 要入館料

国際平和ミュージアム 第1回平和創造ワークショップ

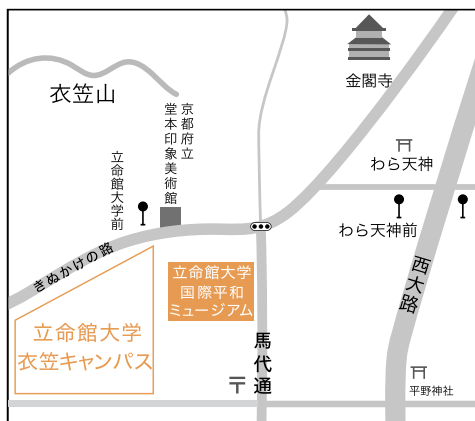
「ガザのいまー私たちにできること」

日時 6月 6日(木) 13:00～14:30

登壇者 小林 麗子氏 (特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンターJVC)

会場 国際平和ミュージアム常設展示場 平和創造テーブル前

参加自由 要入館料



ACCESS

JR・近鉄 京都駅より
・市バス50、快速立命館、JRバス「立命館大学前」下車、徒歩5分
・市バス205「わら天神前」下車、徒歩10分

JR円町駅より
・市バス15「立命館大学前」下車、徒歩5分
・市バス204・205「わら天神前」下車、徒歩10分

阪急電車 烏丸駅より(特急停車)
・市バス55「立命館大学前」、徒歩5分

※お車で来館はご遠慮ください

